



## イチジクの生産性を維持しながら コストを低減します

－ L型元肥を活用した新たな施肥体系を開発－

### 開発の背景・ニーズ

近年、イチジク主要産地の露地ほ場を土壌診断した結果、85%以上のほ場でリン酸（P）・カリウム（K）が過剰となっています。そこで、愛知県経済農業協同組合連合会（以下、「JAあいち経済連」）とともに、リン酸・カリウムの含有量を削減し、環境負荷を軽減できる新たな元肥用肥料「いちじく有機配合8-2-2」（以下、「L型元肥」）を用いた施肥体系の開発に取り組みました。



### 成果の内容

#### ○旧配合肥料と同等の生育結果

L型元肥は一般的に使用されている元肥である「いちじく有機配合（6-5-5）」と同等の生育と果実生産が得られました。

#### ○価格と元肥の実施肥量を低減

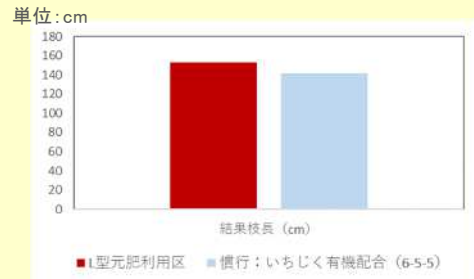
L型元肥は「いちじく有機配合（6-5-5）」と比較して、販売価格が15%程度安価になるとともに、実施施肥量（撒布量）が10a当たり40kg（2袋分）低減でき、作業負担を軽減できます。

#### 【開発した施肥体系】

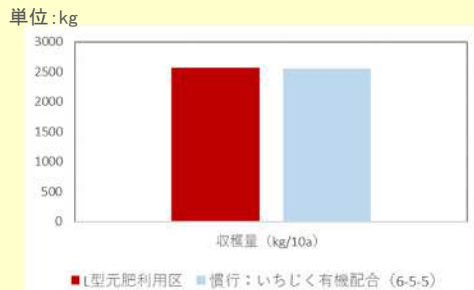
|                |             |             | 施肥量    | L型+追肥体系<br>(N-P-K) | 通常施肥体系<br>(N-P-K) |
|----------------|-------------|-------------|--------|--------------------|-------------------|
| 3月上旬           | 基肥          | いちじく有機配合822 | 120    | 9.6-2.4-2.4        | —                 |
|                |             | いちじく有機配合655 | 160    | —                  | 9.6-8.0-8.0       |
| 5月下旬           | 追肥①         | 粒状固形30号     | 20     | 2.0-2.0-2.0        | 2.0-2.0-2.0       |
| 6月中旬           | 追肥②         | 硫酸加里        | 10     | —                  | 0.0-0.0-5.0       |
| 6月中旬<br>～10月中旬 | 追肥③<br>～追肥④ | 粒状固形30号     | 10×7回  | 7.0-7.0-7.0        | 7.0-7.0-7.0       |
| 10月下旬          | 礼肥          | 粒状固形30号     | 20     | 2.0-2.0-2.0        | 2.0-2.0-2.0       |
|                |             |             | 計      | 20.6-13.4-13.4     | 20.6-19.0-24.0    |
|                |             |             | リン酸削減率 | 30.0%              |                   |
|                |             |             | 加里削減率  | 44.0%              |                   |

L型元肥「いちじく有機配合8-2-2」を利用した場合の施肥体系の一例（単位：kg/10a）

#### 【生育状況】



#### 【推定収穫量】



### 愛知県農業への貢献

- 本施肥体系はリン酸とカリウムが過剰となっている園地を対象として活用することができ、価格面、労力面の両方でコストを低減することが可能です。
- 開発されたL型元肥は、JAあいち経済連経由で愛知県下JAで購入することができ、県下のイチジク農家で活用することが可能です。